

学校教育目標	◎よく考える子(すずんで学び考え、あきらめずに問題に取り組む子供)	【目指す学校像】	○全ての子どもの良さ・可能性を伸ばし、自己肯定感を育てる学校	
	○心豊かな子(やさしい心で、自分も他人も大切にすること)		【目指す児童・生徒像】	○自己肯定感をもって自己発揮でき、自分や他人の良さが分かり、大切にできる子供
	◎たくましい子(すずんで体を鍛え、粘り強く行動する子供)			【目指す教師像】

領域	中期経営目標 (3年間)	短期経営目標 (1年間)	具体的方策	取組指標	評価	成果指標	評価	自己評価結果の分析	学校関係者評価	評価	次年度への改善策
確かな学力	学力向上との関連を図った探究的な学びの充実を図る。	日常の授業の充実を図るため、基礎的な知識・技能の習得を図る授業の在り方を追究する。	自分の苦手分野を知り、解決や克服の努力をすることで学びを深めるようにする。	4 全教科・領域で実施する。 3 90%以上の教科・領域で実施する。 2 80%以上の教科・領域で実施する。 1 実施した教科・領域が80%未満である。	3	4 全学年の90%以上が実施できた。 3 全学年の80%以上で実施できた。 2 全学年の70%以上で実施できた。 1 全学年の70%未満しか実施できなかった。	3	「活用」に関しては、共通理解が図られてきたが、基礎的な知識・技能の習得に根差す必要があった。	基礎的な知識・技能の習得の更なる継続と学習意欲の向上を図る取組を深めていただきたい。	A	基礎的な知識・技能の習得のプロセスを研究し、共通理解を図る。
		生活科・総合的な学習の時間及び各教科において問題解決学習を行い、学力向上を図る。	児童が「是非、解決してみたい。」「追究してみたい。」「感じる実践を展開する。」	4 生活科・総合的な学習の時間以外に、1教科以上で実施する。 3 生活科・総合的な学習の時間以外に、1教科で実施する。 2 生活科・総合的な学習の時間のみで実施する。 1 問題解決的な学習が実践できなかった。	4	4 授業にすずんで参加できたと思える児童が80%以上 3 授業にすずんで参加できたと思える児童が70%以上 2 授業にすずんで参加できたと思える児童が60%以上 1 授業にすずんで参加できなかったと思える児童が60%未満	3	問題解決型の学習を目指して研究が行われてきたが、児童が「是非、解決してみたい。」と感じる課題になり切れていなかった。	昨年度の研究発表を生かした取組を継続し、児童が追究意欲を感じる課題づくりを行っていただきたい。	B	デジタルを活用したこれからの学びにつなげるために、児童が追究意欲をもてる課題づくりを行っていく。
		協働的な学びを推進するため、児童が意欲的に取り組む授業実践を行う。	学んだことを生かした対話・アウトプットを豊かに取り入れ、個々の知識・技能を活用できるようにする。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 8学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	3	4 安心して学校に通えていると感じる児童が80%以上 3 12学級以上が取組を行っている。 2 安心して学校に通えていると感じる児童が60%以上 1 安心して学校に通えていると感じる児童が60%以上	3	児童自身が習得した知識・技能を使って思考を深める過程をより丁寧に取り扱うべきであった。	協働的な学びが自然発生するよう、学びを深める取組の充実を図っていただきたい。	B	「ペア学習」ありきでなく、いかに児童が個人内対話を図れるかを追究していく。
豊かな心	児童の自尊感情・自己肯定感の更なる向上を図り、積極的に社会に関わる人材を育成する。	人権尊重の精神に基づき、いじめのない学級、いじめがなく毎日安心して登校できる学校づくりを行う。	様々な個性が認められる学級づくり、気持ちの良い挨拶や言葉掛けを互いに行い、安心感のある学校を児童とともにつくる。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	3	4 すずんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すずんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すずんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すずんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満	3	特にふれあい月間の諸調査のフードバックの在り方に課題があった。	挨拶は大人が率先して行うことも大切である。また、具体的な児童の姿も学校側で見逃さず捉えていただきたい。	B	いじめアンケートについては、迅速に分析、聞き取りを行った上で、ふれあい月間の半分以上は経過観察の期間とする。
		偏見と差別を許さず、多様性を認め合う人権教育を推進する。	道徳教育や各教科との関連を図りながら人権教育を進める。	4 全学級が道徳科や教科と関連させた人権教育を実施している。 3 12学級以上が道徳科と関連させた人権教育を実施している。 2 道徳科や教科と関連させた人権教育を行っている学級がある。 1 道徳科や教科と関連させた人権教育を行っている学級10学級以下である。	4	4 人権感覚が高まったと思える児童が90%以上 3 人権感覚が高まったと思える児童が80%以上 2 人権感覚が高まったと思える児童が70%以上 1 人権感覚が高まったと思える児童が70%未満	3	計画的に研修、人権標語の取組が行えた。学年の系統性を考慮した実践をすべきである。	多様性を認め合うために、学校として何が必要かを具体的に示したものがほしい。	B	人権教育プログラムに従い、学年の系統を明らかにした本校独自の計画が必要である。
		思いやりをもち人やもの、こととの関わりを豊かにする教育を推進する。	言語活動の充実、読書指導の充実を図り、自己肯定感の醸成と豊かな心を生み出す風土を築く。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	3	4 すずんで活動に取り組んだと思える児童が90%以上 3 すずんで活動に取り組んだと思える児童が80%以上 2 すずんで活動に取り組んだと思える児童が70%以上 1 すずんで活動に取り組んだと思える児童が70%未満	3	何のための読書指導の充実か、そのために具体的にどんな指導が必要かの検証が必要である。	読書指導の他にも、対人関係で育まれる言語活動の充実を大切に実践していただきたい。	B	特に読書指導については、読んだ冊数やページ数で判断するのではなく、個々の心にどのような影響を与えたかの分析が必要である。
健やかな体	総合的な体力向上と日常的な健康教育の充実を図る。	総合的な体力向上と日常的な健康教育の充実を図る。	授業や体育的行事を充実させ、目標をもって自己の体力を向上させる児童を育成する。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	3	4 「よく体を動かしている。」児童が80%以上 3 「よく体を動かしている。」児童が70%以上 2 「よく体を動かしている。」児童が60%以上 1 「よく体を動かしている。」児童が60%未満	3	体育科の授業の充実については、改善の道半ばである。	身体をコントロールすることは、心をコントロールすることにつながる。日々の体力づくり、健康づくりへの意識が高めていただきたい。	B	児童の体力向上のため、体育科の授業の充実について日常的にOJTを行っていく。
		自分の身は自分で守り、困難を乗り越えるたくましい心を育む。	体力向上の取組の中で自己の体力を知り、めあてをもって努力する気持ちや危険を回避する能力を養う。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 困難を乗り越えたと思える児童が90%以上 3 困難を乗り越えたと思える児童が80%以上 2 困難を乗り越えたと思える児童が70%以上 1 困難を乗り越えたと思える児童が70%未満	3	朝会時の行進指導、体育朝会の工夫など、教員側の努力が進んできている。	学びは自ら生み出すものである。体力向上の目的を児童が理解する働き掛けをしていただきたい。	B	更に児童が目的意識をもって活動に臨めるよう、研修を行い、共通理解を図っていく。
		心身ともに健康な子どもの育成を図る。	体幹を意識した運動や食育指導の取組を通して心身の健康を保つ大切さを理解し、すずんで取り組む。	4 全学級が取組を行っている。 3 11学級以上が取組を行っている。 2 9学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	3	4 すずんで取り組む児童・家庭が90%以上 3 すずんで取り組む児童・家庭が80%以上 2 すずんで取り組む児童・家庭が70%以上 1 すずんで取り組む児童・家庭が70%未満	3	毎朝の体幹トレーニングを年間を通して継続して行うことができた。	体幹を意識した運動・食育指導を継続して行っていただきたい。	B	必要性の有無を含め、何のために行うのか、どのような効果があるのかを検証する。
輝く未来	世界に目を向け、正解のない問題に立ち向かう力を育成する。	郷土昭島に対する愛着や誇りをもち、積極的に良さを発信する子供を育成する。	地域の素材や人材の活用、伝統文化、自然との関わりから昭島の良さを捉え、積極的に発信できるようにする。	4 全学級が取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 取組を行っている学級が10学級未満である。	4	4 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が90%以上 3 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が80%以上 2 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%以上 1 伝統文化や郷土への愛着を抱いた児童が70%未満	4	校内研究を中心として、地域の素材や人材を活用した実践を行うことができた。	60周年記念誌には、学習材としての価値を感じた。地域人材とのつながりを継続して進めていただきたい。	A	今後も地域の方々には協力を仰ぎながら実践を継続していく。
		未知の事柄や学習に対して自分なりに見通しやめあてをもって取り組んでいける能力を育む。	自分が設定した課題に対して見通しをもって解決し、保護者や地域に発信することができる。	4 全学級が充実した取組を行っている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 充実した取組を行っている学級が10学級未満である。	3	4 学んだことを保護者や地域に発信できたと思える児童が90%以上 3 学んだことを保護者や地域に発信できたと思える児童が80%以上 2 学んだことを保護者や地域に発信できたと思える児童が70%以上 1 学んだことを保護者や地域に発信できなかったと思える児童が70%未満	3	特に授業における情報交換や話し合いでは、他人の意見を聞く一方の児童が散見された。	児童が具体的な目標をもって取り組めるような教育活動を行っていただきたい。	B	児童が見通しをもって課題を解決できるようにするための単元開発や教材研究が一層求められる。
		地域や保護者の願いや教育活動に取り入れ、「地域とともにある学校づくり」を推進する。	多様化するニーズに応えながら教育活動を進め、地域社会構築への参画を図る児童を育成する。	4 全学級が参画を考えさせている。 3 12学級以上が取組を行っている。 2 10学級以上が取組を行っている。 1 参画を考えさせた学級が10学級未満である。	4	4 実践意欲を抱いた児童が90%以上 3 実践意欲を抱いた児童が80%以上 2 実践意欲を抱いた児童が70%以上 1 実践意欲を抱いた児童が70%未満	4	盆踊りに関わる実践を中心として、地域の願いを教育活動に取り入れ、保護者に発信することができた。	盆踊りの実践は貴重な一歩である。主体性をもち、地域社会構築につなげるような取組を充実させていただきたい。	A	今後も実践を継続し、保護者の世代も地域社会構築の担い手として取り込んでいく。